

高木復興大臣岩手県訪問ぶら下がり記者会見録  
(平成28年7月13日(水) 1530～1538 於) 岩手県大船渡市)

1. 発言要旨

本日は、花巻市、陸前高田市、大船渡市を訪問させていただきました。花巻市では地域観光資源、陸前高田市では心のケアに対する取組、大船渡市では中心市街地におけるまちづくりや食品加工会社による販路拡大に向けた取組について視察を行わせていただきました。

花巻市の宮沢賢治記念館は、来訪者数が年間17万人ということでございます。これまで通算700万人超と、個人の記念館としては最も来訪者数の多いものとなっているとお聞きをいたしました。修学旅行の利用も多く、岩手の心を学んだり、そういった学びの場にもなっていますし、また本年は東北観光復興元年と位置付けておりますので、このような観光資源を十分に生かせるよう、東北観光施策に今後とも取り組んでまいりたいというふうに思いました。

続きまして、陸前高田市の「りくカフェ」におきましては、新しい東北の支援事業として、地元の方々の協力で陸前高田の住民が健康で元気に暮らせるように減塩された健康食品を提供しておりました。生き生きと働く女性の皆さんの活躍が大変印象的でした。

また、陸前高田市の施設では、震災の遺児に同じ境遇の仲間が集うなどの環境や、そういった場所の支援を提供することで心のケアを行っておりました。震災後5年となりますが、このような課題はじっくりこれからも取り組む必要があると感じました。

大船渡市のまちづくり事業では、大船渡駅周辺地区の市街地の整備状況を視察をさせていただきました。整備後には便利で暮らしやすい町になる見込みでありまして、周辺ではアパートの建設も増えているとのことでした。

大船渡市の食品加工業者におきましては、ハンズオン支援により品質向上に取り組む、販路拡大を進めている状況をお聞きをいたしました。水産加工業は三陸の基幹産業でもありますけれども、しっかり復興してきているという実感を持ちました。

今後も被災地に寄り添いながら、現場主義に徹してきめ細かな対応を行い、被災地復興の更なる加速化に向け、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

私から以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今日視察された復興状況に関する御所感をまず聞かせていただ

けますか。

(答) 5年がたちまして、これまでインフラあるいはハードの整備というのをやってきましたけれども、今日は観光だとか、あるいは心のケアだとか、あるいは水産加工業の産業、いわゆるなりわいの再生、そういったものを見せていただいて、復興が着実に進んでいると、新しい段階にきていると、そういうふうに復興・創生期間にふさわしい復興がなっていると思いました。

また、大船渡のまちづくりも大変大規模な事業でありますけれども、市長さん初め、地元の皆様方のしっかりとした取組によって、来年中とお聞きしてありますけれども、来年中には完成するということのでございますので大変楽しみにしております。また完成になった暁には、是非訪れたいとも思います。

(問) 先ほども観光復興元年という言葉がありまして、あとは産業の販路拡大に力を入れるということですのでけれども、具体的にその辺りについて、今後どのように復興庁として支援をされますか。

(答) 観光につきましては、アドバイザー会議を昨年立ち上げて大変素晴らしい提言も頂いておりますし、今、県もそうでありまして、いろいろな関係機関がそれぞれ取り組んでいただいておりますので、復興庁ももちろん、自分自身でやることもありますけれども、いい形に進んでいくんだらうと思います。

特に、インバウンド50万人泊を150万人泊という、2020年、大変意欲的な目標も設定しておりますので、それに向けてまだ始まったばかりでありますけれども、来年以降も引き続いてこの観光復興を成し遂げていくということを頑張っていきたいというふうに思います。産業というか販路拡大については、ハードの整備というのには、おかげさまでかなり、85%と確か聞いているかと思っておりますけれども、進んでおりますけれども、肝心の売り先だとか、最近では原料不足という話もお聞きしますし、あるいは人手がないというようなこと。今日もこの食品会社さん、御苦労なさっているようでありました。ここはしっかりと従業員さんも確保されてやっておりますけれども、ソフトの面で、販路の拡大、それから原料不足、そしてまた人手不足、そういったような課題がありますので、そんなようなところをどのようにやっていけばいいのかというようなことを考えなきゃいかんというふうに思っています。

(問) 今般の参議院選挙、全国的に自民党、与党候補が勝たれた中で、岩手、宮城、福島の前3県、野党候補が全て勝つという結果になりましたけれども、復興に対する有権者の皆さんの民意のあらわれたというような御指摘もありますけれども、その点についてどのように受け止められますか。

(答) もちろん選挙というのは、一つの要因だけではなくて、様々な

要因が複合的に関係してくるものであるというふうには思います。

しかし、今御指摘のように、現実としては3県で与党の議員が敗れてしまった。これは接戦はしましたけれども、敗れてしまったということで大変残念に思っているところでもあります。謙虚に受け止めなければならないだろうというふうに思いますので、これからも引き続きしっかりと被災地の皆さん方に寄り添いながら、復興を更に加速化していくということが大切なんだというふうに思っております。

(問) 関連してなんですが、平野元復興大臣と一緒に参院選でも自民党の候補者を応援され、それから自民党にも入党届を出したという動きがありますが、大臣の御所見をお聞かせください。

(答) まだ手続の、こういった御意思があるというようなことは聞いてますけれども、まだ手続を踏んでらっしゃるところだということでございますので、今の段階で私からはコメントは差し控えたいというふうに思います。

(問) 今回、大船渡と陸前高田市にいらっしゃったのは、前回の昨年10月以来になりますけれども、実際そのことで復興としてお感じになったことをお願いします。

(答) 随分やはり具体的に進んできたなというふうに思います。大船渡もホテルの部屋から見せていただきましたけれども、しっかりと計画が成されていて、それに向けて着々と進捗しているというふうに思いますし、それからBRTもしっかりと運行されていて、聞くところによると非常に利便性が高まったというようなことも聞いておりますし、いいことだなというふうに思います。そうした点においても、復興は進んでいるというようにことを思いました。

(問) 震災から5年が経ちますけれども、今後必要なものというのはどうお考えですか。

(答) 今まだ避難なさっている方がたくさんいらっしゃいますから、まずはやはり避難生活をなさっている方に対するケアというものです。そういったものはしっかりとやらなきゃいけませんし、それから今、今年、来年にかけて住まいの再建もピークでありますけれども、1日も早く災害公営住宅あるいは高台移転等、そういったものをしっかりと早く進めていって、1日も早く避難されている方が恒久的な住まいに入っていただくということが、まずは必要なことだというふうに思います。

併せて、先ほど来申し上げているとおり、いよいよ生活だとか、あるいは産業、なりわい、こういったようなものもしっかりとやっていく必要があると思います。正に新しい5年が始まりました、復興・創生期間。なるべく早いうちに、そうしたいわゆる復興の

総仕上げという表現もしておりますけれども、岩手、宮城においては復興の総仕上げに向けて、更に復興を加速化させていくということが必要だというふうに思っています。

(以 上)